神奈川畜産情報

神奈川県畜産会のホームページ
「かながわ畜産ひろば」〔http://kanagawa.lin.gr.jp/index.htm〕

隔月（１日）発行
〔神奈川畜産情報（平成18年１月号以降）はホームページでもご覧になれます〕

発行所
神奈川県畜産会
横浜市磯子区西町14-3
畜産センター内
電話 045（761）4191
FAX 045（759）1162
発行人
志村善一

定価１部10円（１年100円）
会員の購読料は会費に含む

謹賀新年

（一社）神奈川県畜産会
会長　志村善一

平成二十六年の新春を迎え
皆様のご健勝を心から
お慶び申しあげます。

先ずは昨年の畜産会に対する多くの皆様より寄せられましたご厚情に深く感謝申しあげます。本年も変らぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申しあげます。

昨年は、日銀の金融緩和を受けて、株高・円安が進み、景況感は好調となりました。また、参議院議員選挙では自民党の圧勝で、「ねじれ国会」は解消されました。しかしながら、ＴＰＰ問題、消費税増税を迎えての不安など、政府には多くの課題が課せられています。一つ一つ丁寧に、そして迅速に、課題解決に向けた施策展開を期待するところです。

ＴＰＰにつきましては、昨年後半に各政府間で精力的に交渉が行われましたが、妥結には至らず、越年となりました

ＴＰＰは、関税撤廃の例外措置を認めない完全な貿易自由化を目指した交渉であり、締結すれば日本の農畜産業は壊滅し、輸入増大による国内生産は崩壊、ひいては関連産業も廃業を余儀なくされ、大幅に雇用は失われます。これでは国民の圧倒的多数が望む食料自給率の向上は到底不可能であり、食料の安定確保も危ぶまれます。日本の農畜産業を守るため、断固反対していかねばなりません。

東電福島第一原発事故の影響による本県産牛肉の風評被害については、昨年十月に改めて経産省、文科省、農水省に対し損害賠償対応に係る再要請を行うとともに、東電に対し、賠償に応じるよう要請したところです。東電の誠意ある回答が待たれます。

このような中、畜産業界は今までに経験したことのない危機的な状況にあり、経営は非常に厳しく自助努力ではいかんともしがたい事態となっております。飼料価格の高騰、畜産物価格の低迷、消費の減退、畜産物の安全・安心の確保等、課題が山積みしております。

乳牛につきましては、消費者の販売価格に対する反応が厳しい中で、更なる経営安定対策の実施を期待するとともに、乳牛の改良増進や自給飼料の新たな作付け・増産の検討、乳質改善により一層取り組む必要があります。

肉牛につきましては、長引く枝肉価格の低迷に加えて、原発事故の影響が重なり、素牛価格の高騰も相まって、一層厳しい経営状況となっております。

養豚におきましては、豚価の長期低迷が経営を圧迫しており、思い切った対策の実施が望まれます。また、最終段階にあるオーエスキー病の清浄化、更にＰＲＲＳ等の慢性疾病対策が今後の課題となっています。

養鶏では、高病原性鳥インフルエンザの発生が危惧されるところですが、幸いにも今シーズンは国内発生がなく、このまま推移することを願っております。

口蹄疫や高病原性鳥インフルエンザなどの悪性伝染病は、中国や台湾等日本を取り巻く各国で依然として頻発しており、今後とも予断をゆるさないところであります。畜産会としても、昨年は県との共催で防疫演習を実施したところですが、引き続き県内への侵入防止、発生防止に向けて、国・県の防疫対応に協力してまいります。

いずれにいたしましても、畜産を取り巻く状況は、今年も厳しくなることはあっても緩むことは考えられません。畜産会といたしましても、この厳しい難局に全力を上げて取り組んでまいる所存であります。皆様の変らぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申しあげます。

平成二十六年の年頭にあたり、皆様のより一層のご活躍、ご発展並びにご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶

畜産課長
石田　聡

明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、お健やかに新年を迎えられたこと、謹んでお喜び申し上げます。

昨年を振り返りますと、３月に政府によるＴＰＰ交渉への参加表明があり、関税撤廃時の国内畜産業への影響が危惧された一年でありました。12月の閣僚会議でも交渉妥結には至りませんでしたが、県としても交渉の推移を引き続き注視していくとともに、国民に対する十分な情報提供や、国民の利益に結びつくよう交渉に臨むことについて国に求めているところです。

また昨年10月下旬以降、ホテル業界・百貨店等からも食品・食材の偽装問題が発覚し、食の安全・安心に関する国民の目を更に厳しくさせた年でもありました。

これまで国としては、「新たな食料・農業・農村基本計画」を定め、国民全体で農業・農村を支える社会の創造を目指した様々な取組みを行ってきました。平成26年度は当計画の見直しの年度にあたるため、昨年12月見直しの基礎となる「農林水産業・地域の活力創造プラン」が決定されており、農業・農村全体の所得を今後10年で倍増させるための基本的方向が示されたところです。

県としても、「かながわの畜産物のブランド力の強化と新たな販売戦略（＝出口戦略）」「臭気などの環境対策」「家畜伝染病の危機管理対策」などによる、「力強いかながわの畜産＝儲かる畜産」の実現に向けた取組みを平成25年度から進めており、平成26年度からは本格的に展開していく予定です。

昨年11月17日には、この「出口戦略」の取組みとして、関係団体及び企業の皆様・出展者の皆様のご協力のもと、県庁舎施設公開を活用した畜産物認知度向上イベント「かながわ畜産フードコレクション２０１３」を開催することができました。当日は約1万人もの皆様が来庁し、神奈川のおいしくて魅力的な畜産物を、食べて・知ってもらう事ができたほか、畜産関係者が一丸となって戦略的に取り組んだ様子がテレビのビジネス番組で取り上げられるなど、一日だけの開催にとどまらない大変影響力のあるイベントとなりました。

この場をお借りして開催関係者の皆様に感謝をいたしますとともに、県民からの「かながわの畜産物をもっと食べたい・買いたい」という言葉に応え、畜産農家の販路拡大や有利販売に繋がるよう、イベントに限らない様々な取組みを支援してまいりますので、引き続き関係各位のご理解とご協力をお願いいたします。

家畜衛生関係では、口蹄疫や高病原性鳥インフルエンザなど依然として目が離せない家畜伝染病への防疫体制強化のため、平成25年度から農場毎の初動防疫活動計画の作成を進めているほか、「家畜伝染病発生時における防疫資材等の調達に関する民間事業者との協定の締結」も行ったところです。平成26年度も、家畜保健衛生所を中心にした防疫演習の充実や初動防疫に必要な資機材の整備等により、危機管理体制をより強化・充実させていく事としております。

今後も畜産業を取り巻く状況は厳しさが続くと思われますが、皆様とともに「力強いかながわの畜産」の実現に取組んでいく所存でございます。神奈川県畜産会におかれましては、畜産振興の中核として生産者支援に益々大きな役割を果たしていただきますとともに、畜産行政へのご協力についてもよろしくお願い申し上げます。

結びにあたり、今年が本県の畜産業にとって夢を描ける良き年となること、併せて皆様のご健康・ご発展を心から祈念して、新年の挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶

農業技術センター畜産技術所
所長　吉田昌司

新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましてはお健やかに新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

担い手の減少、輸入飼料価格の高騰、ＴＰＰ交渉、消費税率のアップに加えて、高い地価や環境対策など、かながわの畜産を取り巻く環境は厳しい状況です。生産コストの低減、環境対策、消費者ニーズの把握、付加価値の創出、担い手の育成など直面する課題を解決し、かながわの強みを活かした畜産業の発展を図るため、神奈川県では「畜産物の出口戦略の推進」「環境対策の強化」「担い手の育成」を展開しております。畜産技術所では試験研究や普及指導の面からこれらの施策を具体化してまいります。

具体的には、出口戦略では、いまま県内になかった地域銘柄鶏について、国産種鶏を用いて肉用銘柄鶏を作出しております。今年には産肉性のよい鶏種の組み合わせをご報告できるかと思います。

味に関する研究では、県内畜産物ブランドを支援するために、県内ブランドの牛肉や豚肉の味の特徴を明らかにし、味の見える化を試みていきます。さらに、県民の畜産物へのニーズが多様化していることから、生産者と消費者のマッチングに活かすべく、アンケート調査や食味調査を通して県内の消費者ニーズの把握に努めてまいります。

環境対策では、現場で農家ごとに最適な臭気対策がとれるよう、簡易な臭気検査方法を開発してまいります。

担い手育成では、畜産後継者に対する支援や高度な畜産技術導入への支援を強化してまいります。

さて、昨年十一月に県庁で開催した「かながわ畜産フードコレクション２０１３」では約一万人が来場しました。当所で十月に開催した「家畜に親しむつどい」でも、四千人もの方が来場され、県民の食への関心の高さに驚かされました。当所では、消費者に畜産への理解を深めていただくため、施設見学、体験学習や出前講座を行っております。改めて、このような食育活動の重要性を認識するとともに、積極的に食育活動を進めてまいります。

いずれにいたしましても、畜産技術所では、研究部門と普及部門が連携して皆様の経営を支援するためにさまざまな取り組みを進めてまいりますので、皆様のより一層のご協力を心からお願い申し上げます。

年頭にあたり、貴会の益々のご発展と、皆様のご健勝とご活躍を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

酒も豆腐も国産の原料で造りたいね

我が国では安全が確認されていない遺伝子組み換え（ＧＭ）の小麦が経緯不明のまま米国から輸入されそうになり、大豆に至っては輸入の八八％がＧＭと見られている。この大豆は食用油や家畜の飼料などに使われており、日本の大豆の自給率八％では輸入に頼るしかないのが現状である。ＧＭ作物の長期間摂取は人体にどの様に影響するのか、生態系にも異変が起こらないのか、世界の誰も経験していない。米国等のＧＭ作物に対する安全神話が、日本の原発の安全神話のように一夜にして覆り、「やっぱり止せばよかった」とならないか心配です。毎日納豆を食べ、健康増進のためにと、豆乳を飲み、湯葉や豆腐を豆富として崇めるように食べている方々の心境は如何なものか。でも心配していたら食べる物が無くなっちゃいますよね。環太平洋経済連携協定（ＴＰＰ）の交渉により、もし食料輸入量が増大するような事態に陥れば食の安全や生態系への悪影響が懸念されます。米、カナダ、オーストラリア等が使う除草剤が輸入牧草に残留し、その牧草を与えた牛の糞で作った堆肥を施肥した苗物に生育障害が発生したことが、当誌の前月号（平成二五年一一月一日号）に畜産技術所・竹本普及指導部長執筆で掲載されましたが、食物の連鎖はどこに何が発生するのか、全く恐ろしいものですね。

「豆食ってピー、芋食ってブー」のような原因と結果が短絡的な事は誰にでも解るだろうが、複雑にモザイク模様のように入り込んだ食物連鎖を食の安全のために調査するのは時間も費用も膨大なものが必要でしょう。作物を食べた害虫が死んでしまうような特定の遺伝子を組み込んだ作物を食べ続けたら、ヒトだって虫けらのようにならないものか？こんな輸入品の安全確保のために、「風が吹けば桶屋が儲かるのは何故か」を調べるような調査研究に膨大な費用をかけるよりは日本農業の生産量を増やすことを、中山間地域の農業支援をして、治山治水、集落の存続維持等にお金を使い、地方の活性化を図りつつ食の安全を確立すべきではないのか。

ＴＰＰの交渉で目先の金儲けに走らず、食の安全を切に願いたい。

今宵も国産大豆の豆腐と国産米の酒で眠りにつきたい。

（忠九朗）

新むらすずめ

地方競馬の収益金は
畜産振興に役立っています。

川崎競馬開催日

26年1月27日(月)～31日(金)
3月　3日(月)～　7日(金)

昼間開催

「かながわ畜産フードコレクション２０１３」に御協賛・ご協力頂き、ありがとうございました。

○本イベントは、十一月十七日、県庁本庁舎にて約一万人の来場者を迎えて盛大に開催されました。

県民の皆様に、神奈川の畜産を知って頂く大きなきっかけになったと感じております。このイベントが継続的に実施できますよう、皆様の御支援、ご協力を今後ともよろしくお願い申し上げます。

なお、今回の開催にあたり、ご尽力頂いた県職員スタッフが、県のイメージアップに寄与した功績により県知事から表彰されましたので、申し添えます。

左記の団体・会社から協賛金を頂き、イベントを円滑に運営することが出来ました。誠にありがとうございました。

【御協賛者様一覧】

全農神奈川県本部
協同飼料㈱
日本農産工業㈱
県乳業協会
県牛乳事業協同組合
県牛乳普及協会
森久保薬品㈱
県家畜商業協同組合
県畜産振興会
県酪連
県養豚協会
県養鶏連
県食肉事業協同組合
かながわ酪農協
神奈川中央養鶏
県肉用牛協会
県肉牛経営者協議会
県畜産会
県畜産会養鶏部会
化学及血清療法研究所
かながわブランド振興協議会
㈱インターベット
県農協中央会
県配合飼料価格安定基金協会
県養蜂組合
神奈川食肉センター
日清丸紅飼料㈱
日本配合飼料㈱
雪印種苗㈱
㈱オールインワン
兼松アグリテック
三幸医化学㈱
アローメディカル㈱
㈱微生物化学研究所
Ｍｅｉｊｉ Ｓｅｉｋａファルマ㈱
共立製薬㈱
ベーリンガーインゲルハイムベトメディカジャパン
フジタ製薬㈱
日本全薬工業㈱
賛助金：神奈川県

（かながわ畜コレ２０１３事務局）

新マルキン事業

『九月及び十月販売牛の補填金単価報告』

◎第２業務対象年間第２四半期九月販売牛補填金単価

肉専用種	○円
交雑種	五三、五○○円
乳用種	四五、五○○円

★補てん金交付日

平成二十五年十一月二十五日

◎第２業務対象年間第３四半期十月販売牛補填金単価

肉専用種	○円
交雑種	四○、○○○円
乳用種	四一、七○○円

★補てん金交付日

平成二十五年十二月二十四日

販売報告書は、販売月の翌月末までに提出し、同時にトレサの転出を完了して下さい。トレサ転出が確認できない場合には販売報告書が提出されていても補填金交付対象から除外されます。

（経営指導部　倉迫）

「養鶏経営技術講習会の開催」

日時　平成二十六年一月二十三日（木）十三時から十七時

場所　ザ・ウィングス海老名２階ル・グラン

（問合せ　神奈川県畜産会養鶏部会　倉迫）

研究情報

平成二四年餌付け採卵鶏の経済検定成績より

現在、国内には多くの採卵鶏銘柄が流通し、各銘柄とも年々改良されているため、銘柄選定が難しく、結局、同じ銘柄を選定しがちです。しかし、必ずしも飼養している銘柄が現在の自分の経営スタイルに合致しているとは限りません。

そこで、本県で普及している採卵鶏の銘柄及び今後普及が期待される銘柄について、それらの特徴や経済性を明確にし、今後の銘柄選定の一助としていただくため、経済検定を実施しています。

この度、平成24年2月に餌付けした採卵鶏の成績がまとまりましたので、ご報告いたします。

飼養期間は平成24年2月から平成25年8月までの80週間です。

供試鶏は白玉鶏のジュリア、シェーバーホワイト（シェーバーW）、赤玉鶏のシェーバーブラウン（シェーバーB）、デカルブブラウン（デカルブB）の4銘柄を各100羽計400羽、当所で飼養しました。

飼養方法は表1のとおりです。各ステージの市販飼料を不断給餌し、18週齢以降は開放成鶏舎内で3段ケージ2羽飼いしました。

各銘柄の検定成績は、表2及び図1～4のとおりで、その概要は次のとおりでした。

表１　試験期間中の飼養方法（０～８０週齢）

飼養管理方法	給与飼料
0～ 3週齢：立体育雛器	0週齢：市販餌付け用（CP22.0%　ME3.00kcal/g）
	1～ 3週齢：市販育成前期用（CP21.0%　ME2.90kcal/g）
4～17週齢：陰圧ｳｨﾝﾄﾞﾚｽ育成舎 2段群飼ケージ（6～7羽飼い） 8時間点灯	4～ 9週齢：市販育成中期用（CP18.0%　ME2.85kcal/g）
	10～17週齢：市販育成後期用（CP14.0%　ME2.80kcal/g）
18～80週齢：開放成鶏舎 3段ケージ（2羽飼い） 15時間点灯	18～80週齢：市販成鶏用（CP17.0%　ME2.86kcal/g）

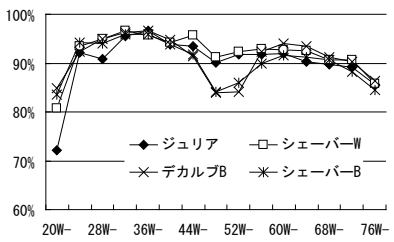

図１　産卵率の推移

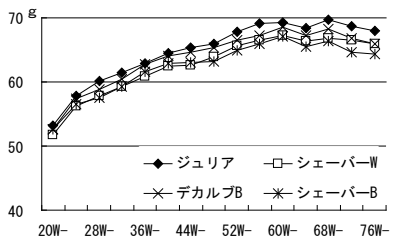

図２　平均卵重の推移

表２　平成２４年度え付け採卵鶏の経済検定の成績（０～８０週齢）

	ｼﾞｭﾘｱ	ｼｪｰﾊﾞｰW	ﾃﾞｶﾙﾌﾞB	ｼｪｰﾊﾞｰB
［育成期（0～19 週齢）］				
育成率（%）	99.0	100.0	100.0	99.0
飼料総摂取量（g/羽）	6,918 a	7,084 ab	7,586 c	7,428 b
140 日齢体重（g）	1,522 a	1,573 a	1,740 b	1,782 b
50%産卵到達日齢	145.8 b	140.8 a	141.8 a	142.3 a
［成鶏期（20～80 週齢）］				
○生産性				
産卵率（%）	90.3	92.0	91.1	90.4
平均卵重（g）	64.8 a	62.7 b	63.8 ab	62.4 b
日産卵量（g）	58.7	57.7	58.1	56.3
飼料摂取量（g/日）	117.9 bc	110.6 a	122.8 c	115.5 ab
飼料要求率	2.02 ab	1.92 a	2.11 b	2.05 ab
生存率（%）	86.5	84.1	92.7	96.9
○卵質（35,50,65,77 週齢時の平均値）				
ハウユニット	84.7 b	88.0 a	81.4 c	81.2 c
卵殻強度(kg/cm2)	4.37 a	3.84 b	4.08 ab	3.95 b
卵黄重比	27.2 a	26.6 ab	25.8 b	25.6 b
血斑出現率（%）	0.0	0.0	7.5	5.0
肉斑出現率（%）	1.3	0.0	2.5	0.0
○規格卵比率				
LL	22.9 a	15.1 bc	18.1 ab	10.9 c
L	39.1 a	32.3 b	37.2 ab	37.9 ab
M	22.1 b	31.6 a	25.2 ab	30.8 a
MS	7.9 b	13.5 a	11.3 ab	13.6 a
S	2.2	3.8	2.9	3.3
パック卵（L～MS）	69.1 b	77.5 ab	73.8 ab	82.3 a
○収益性（生産卵量×卵価－(ヒナ代+育成費+成鶏飼料摂取量×飼料価格）				
規格卵価	1,062.1 ab	1,152.4 a	904.3 b	962.6 b
非規格卵価	655.8 ab	730.8 a	497.4 b	548.3 ab

各銘柄間の異符号間に有意差有り（P＜0.05）

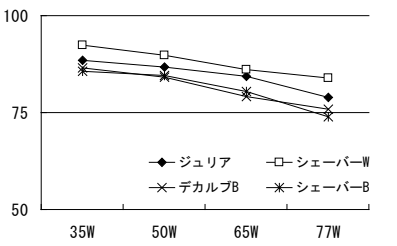

図３　ハウユニットの推移

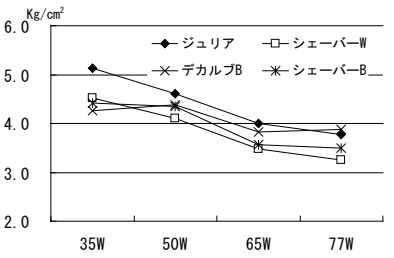

図４　卵殻強度の推移

（一）育成期

育成率は、シェーバーW、デカルブBが100%、ジュリア、シェーバーBが99%と全銘柄良好な成績でした。

0～19週齢の飼料総摂取量は、最も少なかったジュリアが6918gで、摂取量の多かったシェーバーB、デカルブBとの間に統計的な有意差がありました（P＜0・05）。

140日齢体重は、飼料総摂取量が多かった赤玉鶏のデカルブB、シェーバーBが1700g台で、白玉鶏の2銘柄に対して、有意に重くなりました（P＜0・05）。

50%産卵到達日齢は、ジュリアが146日齢で最も遅く、他の3銘柄との間に有意な差がありました（P＜0・05）。

（二）成鶏期（生産性）

産卵率は、シェーバーWが92・0%で最も優れ、最も低かったジュリアと1・7%の差がありましたが、銘柄間で有意な差はありませんでした。

また、図1の4週毎平均産卵率の推移では、全区とも48～51週齢で前4週間に比べて、赤玉鶏で7～8ポイント、白玉鶏で3～4ポイント、それぞれ低下し、56～60週齢でほぼ回復しました。この原因については天候等が考えられますが特定できませんでした。

平均卵重は、ジュリアが64・8gで最も重く、シェーバーW、シェーバーBとの間に有意な差がありました（P＜0・05）。

図2の4週毎平均卵重の推移を見ると全期間にわたってジュリアが高値で推移しました。

日産卵量は、ジュリアが58・7gで最も多く、最も少なかったシェーバーBと2・4gの差がありましたが、銘柄間に有意差はありませんでした。

飼料摂取量は、最も少なかったシェーバーWが110・6gで、デカルブB、ジュリアとの間に有意な差がありました（P＜0・05）。

飼料要求率は、シェーバーWが1・92で最も優れ、以下ジュリア、シェーバーB、デカルブBの順でした。有意な差はシェーバーWとデカルブBでありました（P＜0・05）。

生存率は、シェーバーB 96・9%が最も優れ、最も低かったシェーバーWと12・8ポイントの差がありましたが、各銘柄内の区間でバラツキが大きかったため、有意な差ではありませんでした。

（三）成鶏期（卵質）

卵質検査は35、50、65、77週齢で実施し、その平均値を示しました。

ハウユニットは、シェーバーWが88・0で他の3銘柄に対して有意に優れていました（P＜0・05）。

図3のハウユニットの推移を見ると、全銘柄とも加齢に伴い徐々に低下しましたが、産卵後期の77週齢で全銘柄とも72以上（AAランク）を維持し、良好な成績でした。特にシェーバーWは、全期間デカルブB、シェーバーBに対して有意に優れていました（P＜0・05）。

卵殻強度は、ジュリアが4・37kg／㎠でシェーバーW、シェーバーBに対して有意に優れていました（P＜0・05）。

図4の卵殻強度の推移をみると、35週齢時にジュリアが5・1kg／㎠で他の3銘柄に対して有意に高く、以降も有意な差ではありませんでしたが、高値で推移しました。

卵黄重比は、ジュリアが27・2%で最も比率が高く、赤玉鶏2銘柄に対して、有意な差がありました（P＜0・05）。

血斑出現率は、赤玉鶏のデカルブBで7・5%、シェーバーBで5・0%の割合で見られ、白玉鶏では確認されませんでした。

肉斑出現率は、デカルブBで2・5%確認されました。

血斑出現率、肉斑出現率とも銘柄間で有意な差はありませんでした。

（四）成鶏期（規格卵比率）

規格卵比率では、ジュリアがLL級、L級を有意に多く生産し、シェーバーW、シェーバーBがM級、MS級を有意に多く生産しました（P＜0・05）。

パック卵比率は、M級、MS級を多く生産したシェーバーBが82・3%でジュリアより有意に多い生産比率でした。

（五）収益性

収益性は、生産卵量×卵価－（ヒナ代+育成費+成鶏飼料摂取量×飼料価格）をもとに4週毎で算出しました。

規格卵価は、全農のLL～SSの各卵価を利用し、非規格卵価は、LL～SSの平均価格から10円を引いた価格を利用しそれぞれ算出しました。

試験全期間中の購入飼料の平均単価は52円／kg（消費税抜き）、卵価は非規格卵価152円／kg、規格卵価M級177円／kgでした。

これらの条件で1羽あたり年換算した収益性を見ると、規格卵価でシェーバーW、ジュリア、シェーバーB、デカルブBの順に優れていました。シェーバーWとデカルブBの収益差は248円で有意な差が認められました（P＜0・05）。

また、非規格卵価も同様な傾向を示し、シェーバーWとデカルブBの収益差は233円でした。

（六）まとめ

以上、成績を項目別にお示ししましたが、これを銘柄別に整理して特徴についてまとめます。

ジュリアは、L級、LL級の生産比率が多く、卵殻強度が高いのが特徴です。卵殻強度が高いのでパッケージ工程、流通時の破卵が少なく、製品化率が高いと思います。

シェーバーWは、飼料要求率に優れ、M級、MS級の生産比率が高いのが特徴です。また産卵後期まで高いハウユニットを維持しているので、直売所での販売に適していると思います。収益性は4銘柄で最も優れていました。

デカルブBは、卵重はジュリアとシェーバーの中間的で、規格卵のLL級～MS級を万遍なく生産するのが特徴です。また産卵率はシェーバーWに次で良好でしたが、飼料摂取量が他銘柄に比べて多く、結果として収益性が本調査では最も低くなりました。卵質では卵殻強度がジュリアに次いで優れていました。

シェーバーBは、赤玉鶏としては飼料摂取量が少なくM級、MS級の生産比率が多いのが特徴です。シェーバーWに比べるとハウユニットが低く、この点が改良されると直売所での販売に適した赤玉になると思います。

以上、平成24年餌付けの検定結果についてご報告しました。

試験期間中、産卵率の一時的な低下があり、銘柄間で産卵率の低下が同様ではなく、同じ影響を受けたとは言えないので、この点を考慮して、成績を見ていただきたいと思います。

今後は今まで以上に衛生対策に注意を払い、各銘柄の能力を最大限に引出した検定結果をお示しできるよう努力していきます。

平成25年は5月に白玉鶏のジュリア、ジュリアライト、ジュピター、ピンク卵鶏のユラヌス、赤玉鶏の岡崎おうはん、シェーバーブラウンの6銘柄を餌付けしました。

岡崎おうはんは、卵肉兼用種として（独）家畜改良センター岡崎牧場で作出された純国産鶏です。現在取り組んでいる地域銘柄肉用鶏の種鶏として期待されている銘柄ですが、採卵鶏としての特徴をお示しするため、検定銘柄としました。平成26年12月には成績がまとまる予定です。

（農業技術センター畜産技術所企画研究課　引地宏二）